



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

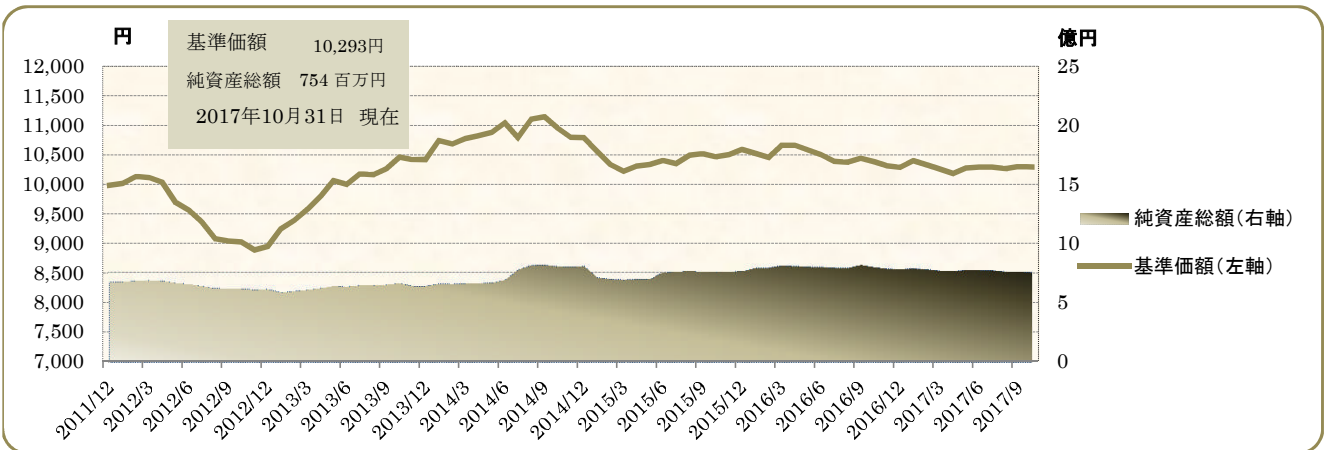
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年10月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

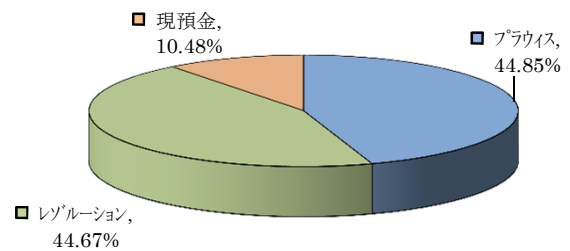
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%			0.07%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2017年10月31日	
基準価額:	10,293円	対前月比 -8円
純資産総額:	754百万円	対前月比 -3.5百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.00%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.06%
設定来	ファンド	2.93%
基準価額騰落率	TOPIX	144.07%
	日経平均	161.99%

投資対象ファンドへの資産配分 (2017年10月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%			3.70%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%			1.88%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A ※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

10月の株式相場は、日経平均で8.13%上昇の22,011.61円、TOPIXで5.45%上昇の1,765.96ptとなりました。下落して始まるも好調な日米の経済指標を背景に米株高や円安となり、上昇傾向になりました。さらに、企業業績拡大への期待や衆院選で与党が3分の2を上回る議席を獲得したことで、日経平均は約20年10ヵ月ぶりの高水準で推移しました。

上旬は、上昇しました。米ISM製造業景況指数が約4年ぶりの高水準となり、好調な米経済指標を背景に米株高や円安となったことを受け上昇しました。衆院選は与党に有利との見方も買い材料となりました。

中旬も引き続き上昇しました。世界的な景気回復や国内企業の収益拡大期待に加えて、衆院選は与党優位との見方が広がり政権安定と金融政策の継続を期待した買いが入り、上昇しました。20日、日経平均は約56年9ヵ月ぶりに14日続伸し、歴代最長記録に並びました。

下旬も引き続き上昇しました。衆院選で与党が勝利し、経済政策が継続することへの期待、米税制改革への期待、また、世界的な景気拡大に伴う業績改善期待などが買いに繋がりました。24日、日経平均は16営業日連続で上昇し、過去最長の連騰記録となりました。

セクター別騰落率では、非鉄金属、電気機器、金属製品、機械、ガラス・土石製品が上位となり、鉱業、海運業、石油・石炭、空運、鉄鋼が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.66兆円と、活況の目安となる2兆円を12ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが2.7%の上昇、東証マザーズ指数は3.7%の上昇となり、TOPIXをアンダーパフォームしました。

ファクター面では、1ヵ月を通じてマーケットが上昇基調を保つ中で、前半はリスク回避的、後半はリスク選好的な傾向を示しました。背景には、決算発表シーズンが始まりグロス銘柄の決算結果がポジティブであること、下旬に米国長期金利が上昇して出遅れていた高ベータの金融セクターの銘柄が大きく反応したことがあります。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブライズ】

〈ファンド運用状況〉

10月の運用成績はJPYクラスで+0.64%となりました。10月前半は、不適切行為が発覚した鉄鋼株を保有していた影響もありマイナスとなりました。しかし、中旬以降は半導体関連銘柄が堅調に推移したことに加え、決算発表が全体的にポジティブに効いたことなどによりプラスの運用成績を確保しました。

セクター別の損益では、化学、電機、情報通信、陸運セクターでプラスとなり、鉄鋼、証券、食品、商社セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

11月の株式市場は緩やかに上昇する相場展開を想定します。10月の連騰によりテクニカル指標面での過熱感がありますが、企業業績が想定以上に好調なことから、利益確定売りをこなしながら徐々に下値を切り上げると考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

10月の株式市場は、月末にやや小型株が戻りましたが、月内ほぼ一貫して大型株優位に推移しました。ファクターで見ると、株価モメンタムが優位、ローリスクが劣位となりました。

相場全体の上昇に対し、ファンドウェイトの大きい内需グロス銘柄は比較的穏やかであり、一方、一部の高バリュエーション銘柄の売りが活況となっております。

ファンドパフォーマンスについては、新規組入を行ったグロス銘柄のロングの一部がプラス寄りましたが、全体としては、ショート銘柄が足を引っ張り、ややマイナスの結果に終わりました。一方的な相場上昇の中で、小型株がやや蚊帳の外の状況にありましたが、機関投資家好みの銘柄への回帰が遅れて発生すると考えます。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

足元の好調さとは裏腹に、来期以降の業績のハードルも高くなってきていることから、個別企業の事業環境などを吟味し、定性的にプレミアム評価を受けやすい銘柄を重視します。

11月も化学、電機、情報サービスのオーバーウェイトを維持しつつ、上期決算のタイミングに一時的なポジション縮小と中期的な視点による銘柄入替を行います。

グロスエクスポージャーの拡大を行っておりますが、1銘柄当たりのウェイトは抑制気味であり、大きくリスクを取るポジションになっておりません。今後は、業績確信度を高めながら、徐々に銘柄集中を進める方針であります。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。